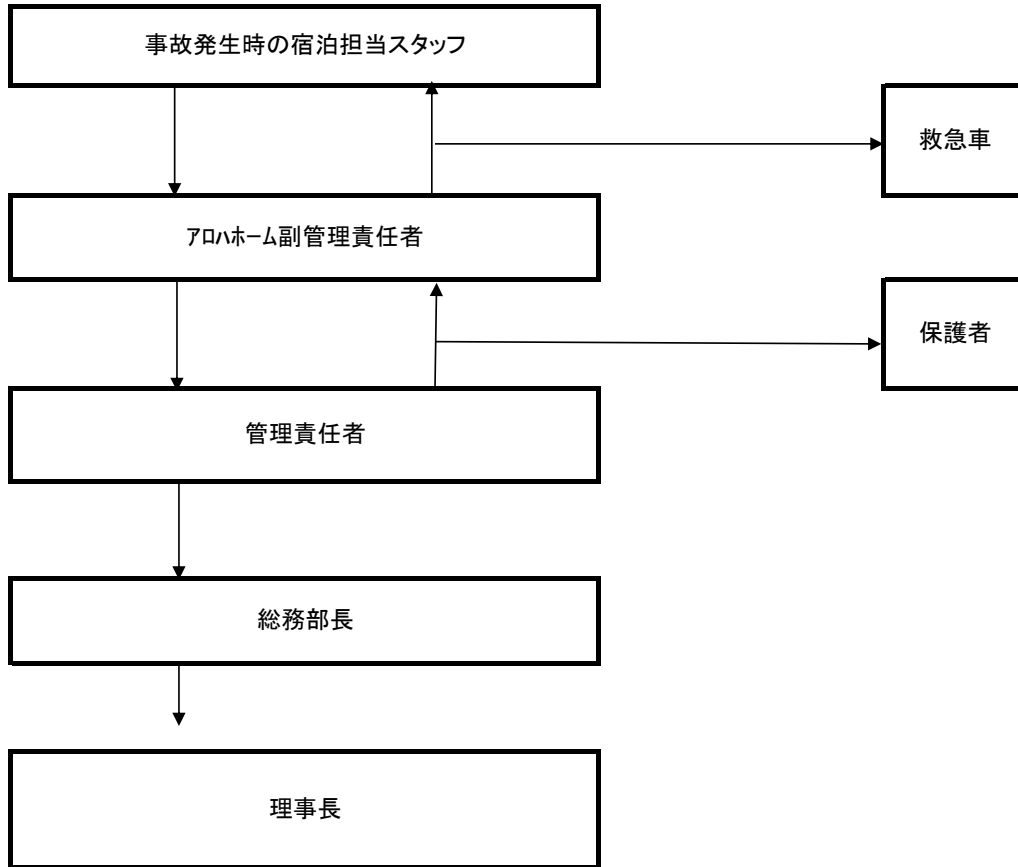


緊急時対応マニュアル

あべのアロハホーム

<緊急時の連絡網>



1.地震対応マニュアル

【地震発生時の対応】

「震度5以上」の地震が発生、または警戒宣言が発令された場合。

※震度を問わず、交通機関や事業所・職場の状況、余震の可能性などにより判断は下記の限りではありません。

◆出勤前(グループホーム内)

宿泊支援者は避難行動をとり、利用者の安全を確保したうえで、ホーム管理者へ連絡し指示を仰ぐ。電話回線がパンク状態になり連絡が取れない状況の場合は避難手順通り、避難場所へ避難する。

初期避難場所:大阪府立阿倍野高等学校 (住所:阿倍野区阪南町1-30-34)

広域避難場所:大阪府立阿倍野高等学校 (住所:阿倍野区阪南町1-30-34)

◆出勤時(事業所・職場)

グループホームの安全を確認後、各事業所・職場への連絡
帰路の確認を行い、各利用者へ連絡する

経過	行動
地震発生 ※1分程度	<p>★身を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内では、家具や冷蔵庫、窓ガラスなどから離れて、机やテーブルなどの下にもぐります。 ・2階で過ごしている時は、トイレに入る。 ・屋外では、塀やビルのそばから離れます。 <p>★脱出口の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドア、窓を開けて出入り口の確保します。 <p>★傾斜地では、安全な場所へ避難</p>
揺れが収まったら ※2~3分	<p>★出火したら消火</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IHクッキングヒーターなどの火を消すこと。 <p>★利用者の安全を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倒れた家具などの下敷きになっていないか確認します。 <p>★靴を履く(余震の感覚が短い時はスリッパのまま)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立者から順に靴を履き玄関外で待機。 <p>★外に出るときは慌てずに ※ヘルメットを着用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者は緊急避難用リュック、懐中電灯を持参 ・ブロック塀、自動販売機、川などには近づかない！
全員の無事を確認 火災の発生を防ぐ ※3~4分	<p>★行方不明者や怪我人がいないか確認</p> <p>★漏電、ガス漏れに注意</p> <p>★火災が発生した時は大声で知らせる</p> <p>★自火報(電話)で、出火場所を通報</p> <p>救急車の有無を端的に伝え脱出する</p>
ラジオなどで 正確な情報をつかむ ※4~5分	<p>★避難するときは徒歩で、避難バックを持ち出す (自動車での避難は行わないこと)</p> <p>★正しい情報を聞く</p>
10分以上⇒5日間	<p>★災害情報、被害情報の収集</p> <p>★余震に注意する</p> <p>★上位者の指示を仰ぎ待機</p>

◎避難バッグの中身

・マスク・手袋・紙パンツ・靴下・水500ml・濡れティッシュ・ポンチョ
ラジオ(予備電池数4本ずつ)・絆創膏・消毒液・冷えピタ・緊急連絡先
・ヘルメット(フェイスタオル・軍手)

施設(ハード面)の地震防災対策

(1) 落下物、家具等の転倒防止対策

① 備品等の対策	・ロッカー及びタンス等の固定	←棚・冷蔵庫等家具類に関しては、転倒防止器具の取付け済み
	・ロッカー・タンス等の上にある備品等の除去や固定	←不要な物品の類は精査後に撤去を遂行中
② 天井からの落下物対策	・照明器具	←取り付け状態の点検及び落下防止、天井固定型に随時取り替え実施
③ 窓ガラス等の対策	・飛散防止フィルム等による補強	←対応予定
	・窓ガラス付近にロッカー、タンス、植木鉢の撤去	←固定していない物は撤去
④ 屋外対策	・屋根の状態点検及び危険箇所の補修・改修	←点検・補修実施予定(H30.10月)
	・外壁、門、塀の状態点検・補強	←実施後、塀の亀裂を発見、撤去実施予定(H30.10月)

(1) 必需品の備蓄

	少なくとも広域的な救援が到着するまでの1週間程度は施設運営が維持できる	←阿倍野社会福祉協議会と連携し、生活用品(水・食料等)に関しては支給ありの確認
--	-------------------------------------	---

2.風水害対策マニュアル

【警報発令時の対応(大雨・台風・雪の日など)】

◆暴風警報発令時

- ①7:00の時点で暴風警報発令→お休み
- ②8:00の時点で解除→通常時間でオープン
- ③9:00の時点で解除→11:00よりオープン
- ④午前中(10:00~12:00)に解除→13:30よりオープン

※ただし、安全を確保できないと判断した場合はお休みとなる場合もある。

各事業所との連携を取りながら、ホームに待機。

※見守りスタッフの交代要員の手配を行い交通手段などの確認の上安全を確認した上で交代。

一般就労に出かけている利用者の職場の出勤体制を確認。

屋外の点検	<ul style="list-style-type: none"> ★窓や雨戸・アンテナ・窓ガラスなどを必要に応じて補強する。 ★玄関先の植木や小物など飛ばされやすいものを取り込む。 ★ベランダの物干しざおを降ろし、その他備品も屋内に取り込む。 ★床上浸水の恐れがある場合は建物の二階に上がる。
屋内の点検	<ul style="list-style-type: none"> ★停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオを準備する。 ★気象情報を注意深く聞く。 ★断水に備えて飲料水・生活用水を確保する。 ★火の始末、戸締りを確実にを行う。

3.火災時の対応

①通報連絡

・自火報(119番)通報

(火災か救急かの種別、住所、目標、火災の内容など)

住所:阿倍野区王子町1-8-3(アロハ・ハイビ)

住所:阿倍野区阪南町1-39-10(オハナ)

住所:阿倍野区阪南町1-56-17(マナ)

目標:松虫の交差点を東へ170m(角の自転車屋を)北へ100m

②消火活動

・消火器を使って、消火活動を行います。

③避難誘導

・避難口(出入り口)を開放し、避難口まで利用者を誘導する。

4.不審者が施設に侵入したとき

利用者を安全な場所に避難させ、「110番」通報。

状況を見て、事務所など施錠できる部屋で警察の到着を待ちます。

*まずは、ルールとなっている利用者飛び出し防止の為に帰宅後は施錠が絶対。

出勤時も格子の無い箇所の窓開放も禁止としています。

5.インフルエンザ・ノロウイルス等、感染性疾患のとき

作業所には出勤できない旨を報告しホームで待機。

ホームへの支援員の緊急配置と共に、緊急会議を開き対応を決める。

◆予防対策

毎日行っているバイタルチェックにより、体調の異変・前兆に気づくように支援しております。

その他にも、咳・鼻水・下痢などの前兆も朝礼・報告書により全スタッフで共有し通院・服薬などで事前に対応。

また、帰宅時・排せつ後に使用できるように各ホームに消毒用アルコールを常備。

食事で使用するテーブル、その他調理器具もアルコール等で毎日除菌を実施。

嘔吐処理セットの常備・嘔吐時には適切に処理します。

6.怪我等での救急通報

①「救急です」

119番につながったら、まずはっきりと「救急です」と言う(=火事ではない)。

②場所(住所)を告げる

◆ホーム内で起きた場合は、事業所の住所を言う。また、目標(目印)となる建物なども告げる。

住所:阿倍野区王子町1-8-3(アロハ・ハイビ)

住所:阿倍野区阪南町1-39-10(オハナ)

住所:阿倍野区阪南町1-56-17(マナ)

目標:松虫の交差点を東へ170m(角の自転車屋を)北へ100m

◆外出先で起きた場合は、公園や通過する大きな交差点や目立つ建物などの名前を伝える。

③事故の状況を説明する

「誰が」「どうしたのか」を正確に分かりやすく伝える。

時間、年齢、転落であればどの程度の高さから落ちたのか、呼びかけに対する反応、打った箇所、誤嚥であれば詰まらせたもの、唇の色の状態 等。

※こうした情報は救急を要請するときだけでなく、ヒヤリハットや事故の情報を共有するときにも重要です。

④通報者の氏名と連絡先を告げる

「私の名前は～、電話番号は～」と告げる。

外出先において携帯電話から通報している場合は携帯電話であることも告げる。

⑤通報後の準備

通報後は当人の保険証等をバッグごと準備し救急車を待つ

お薬手帳が入っているかを確認。また、身長・体重を把握して置く事

【利用者が怪我をした時】

利用者同士のトラブルや関わりの中で起きた怪我の場合には、

怪我の対応後、きっちりと話し合い解決させます。

その後、双方の保護者に連絡し状況を報告します。

◆応急処置

- ・傷口の手当、血液の処置を行う際には使い捨て手袋を使用する等、感染症対策を行います。
- ・頭を打ったとき等は、直ちに病院に連れて行き受診をし、必要に応じてレントゲン撮影を行います。
- ・怪我が軽い時は応急処置を行い、様子を見ます。
- ・嘔吐など異変が見られた時は、直ちに病院に行く体制を取っておきます。

「擦り傷」ができた場合

擦り傷の場所には、小さな砂やゴミなどが入りますので、その砂やゴミを水道水で洗浄して取り除いてください。取り除くことが出来れば消毒液を使つての消毒は必要ありません。

「火傷」を負ってしまった場合

服の上から熱湯をかぶったとしても、慌てて服を脱がしてはいけません。ひどいやけどの場合は、皮膚が一緒に剥がれてしまうおそれがあるので服を着たままで、冷水をかけて服ごと冷やしてください。冷やす際は、大量の水道水で約20分を目安に冷やしてください。水ぶくれはつぶさないでください。火傷の深さは、火傷を負った2日後くらいからハッキリしてくるといわれています。もし、患部に異常を感じたときは、速やかに医療機関を受診させてください。

「突き指」をしてしまった場合

患部を弾性包帯やテープなどで固定し動かさず、なるべく安静に過ごしましょう。

氷や冷水、冷感シップなどで患部を冷やします。

内出血し腫れがひどい場合は、包帯などで軽く圧迫してください。ただし長時間強く圧迫しすぎると血液循環が悪くなってしまうので、あまり強く圧迫しすぎず、数時間ごとに巻き替えるようにしてください。

腫れや内出血、うっ血などを防ぐために、患部を心臓より高い位置に挙げておきます。

もし、患部が足の場合は、横になってクッションなどに足を乗せると良いでしょう。

「熱性けいれん」が起きた場合

一般的には38度以上の熱があるときに起こります。たいていは2～3分でおさまりますが、10分以上続く場合などは危険なので、以下の対処法を行ってください。

1、けいれんの時間を計測する

:10分以上続く場合や、意識が戻らないままけいれんを繰り返す場合などは救急車を呼んでください。

2、嘔吐で窒息しないように、横に寝かせるなど体勢を工夫します。

:タオルなどを口に入れると、窒息の原因になるのでNG！

3、大声で呼ぶ・ゆするなどはNG:刺激でけいれんが長引くことがあります。

4、意識がはっきりするまで、薬・飲物を与えない:気管に入ることがあります。

5、けいれんが終わるまで、必ずそばにいますようにしましょう。

「鼻血」が出た場合

1、左右の小鼻のところを外側からしっかりつまむように圧迫します。

2、横にならず、椅子などに座って、頭の位置を心臓より高くしておきます。

3、ある程度止血できたら、綿やガーゼを丸めたものを鼻の穴にかるく詰め、

この状態のまま少しづつむき、“考える人のポーズ”をして、15分間動かないようにしてください。

「たんこぶ」が出来た場合

出来た原因と本人の状況を確認してください。

1、意識がしっかりしているかどうかを確認します。

2、意識がない場合は脳へダメージが加わっている場合があるので、急いで病院へ行く必要があります。

3、意識があった場合でも、吐き気やめまい、ふらつきが感じる場合は

脳が損傷を受けていることがあるので病院へ行必要があります。

4、たんこぶから出血した場合は、しっかり消毒を行いましょう。頭部は毛細血管が多いので出血した場合、血の量が多くなることがあるので、化膿しないように手当てを行いましょう。

5、頭部からの出血が無くても、鼻血や口から血が出る場合は脳が損傷を受けている可能性があるため、念のため病院に行った方が良いでしょう。

6、状況を確認した際に通常のたんこぶだった場合は、冷やすことを優先してください。

たんこぶが出来ているということは、内部で出血が起きているということになります。

冷やすことにより血管を収縮させることが出来るので、たんこぶが大きくなるのを防ぐことができます。

間違えて温めてしまうと、血管を膨張させてしまい症状が悪化することになるので気をつけましょう。

さらに冷やすことで痛覚を麻痺させることが出来るので、痛みを和らげる効果も期待できます。

患部に熱を加えないようにすると症状が悪化するのを防げるので、

6時間は触れたりして熱を加えるのを防ぐようにしましょう。

後頭部打撲に関しては、まずは救急に電話をしてください。

症状を伝え問題がない場合は、対処方法の指示をくれます。臆せず通報して下さい。

「強打ではないでしょうか？でも不安」と言う時には“救急安心センターおおさか”に相談して下さい。

協力医療機関:医療法人 千寿会 ヒグチ外科

(住所:大阪市東住吉区中野1—5—6)

(電話:06—6702—1205)

このマニュアルは平成30年7月1日より改定する。